

特定ケア看護師の挑戦～NDCのコロナ禍の活動報告～

老健 NDC からの活動報告

地域包括ケアセンターいぶき

桐山真理子（NDC 3 期生）

畑野秀樹（管理者）

1. 桐山さんには老健業務を担当してもらっていて、非常に助かっている。現在、常勤の医師は 2 名だが、一般外来をして、発熱外来をして、往診をするなどの業務に追われている。日中の時間に老健に上がらずにすむというのは非常に助かる。
2. 具体的な業務は、医師のタスクシフト・タスクシェアになっている。入所者の診察やカルテ書き、処方箋の仮入力や紹介状の下書きなどをしていただいている。検査では白癬菌などの顕微鏡での検鏡、腹部や心エコー検査、胸部 X 線検査の補助など、医師一人分の仕事をしてもらっている。
3. 老健での業務でこれだけしてもらえるのは、桐山さんの意欲の高さがあるのかもしれない。是非、他の老健でも NDC を大いに活用してもらいたいと声を大にして訴えたい。
4. 課題だと思ったのは、もともと老健のナースだった桐山さんが、NDC になってからも、ベテランナースからの信頼をもらうのに少し時間がかかったこと。パソコンを触ったり、スマホを触って調べ物をしている姿が、看護師の業務をしていないという見方をされることがあった。私たち医師が十分なフォローをしてあげないといけない。
5. コロナ感染については、本当にありがたいことに利用者に感染者が出なかったこと。ショートステイ 30 床もあるので、持って入る可能性は十分にあった。スタンダードプレコーションに努め、ゾーニングができたこと。スタッフのウイルス持ち込みに対する意識が高かったこと。本人に熱があったり、家族に熱がある場合は休んでいただいて、出勤するときにはコロナの抗原検査をしてから老健に入ってもらうなどしていた。医師が発熱外来をした後に老健に上がることも、NDC がいたおかげで避けることができた。
6. NDC が施設の中に溶け込んでもらうためには、多職種からの理解も必要で、老健の看護師が足りないときは看護師として入浴介助をしてもらったり、コロナワクチンの看護師が足りないときは外来看護師として接種の介助をもらったり、柔軟な対応をもらっていた。そのようなことも大切なことだと思った。